
悪魔の少年と人間の少女。

青葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔の少年と人間の少女。

【Nコード】

N2506S

【作者名】

青葉

【あらすじ】

ん？俺？

悪魔だよ。んでもって人間だよ。

そんな俺が送る学園バトルラブコメだ！

敵が現れたり、非日常の中の日常を楽しんだりする俺の青春を描いてるから、絶対読めよな！

プロローグ

人が殆どいなくなった夜中の高校に一人の浮浪者が校門を乗り越えて入ってきた。

「やっとだ。やっとついた！」

浮浪者が校庭で一人叫ぶ。叫んだ男の耳に物音が響いた。

「誰だ？出てこい。」

誰も出て来ない。仕方ないと呟いて、浮浪者は音の方に歩み寄っていく。

音の正体は木の影にいた。音の主を見て、浮浪者はニヤツと笑い、そして吠えた。

吠えていくに連れて、姿が変わっていく。

体がどんどん大きくなり、腕も増える。馬鹿でかい蜘蛛に浮浪者は変化した。

「喰わせてもらう。」

蜘蛛はそう言って、口を大きく開けて、音の主に迫る。音の主は悲鳴を上げようとするが、恐怖で声が出てこない。ただ震える事しかできない。

後、少して喰われるというところで、突然石が飛んできて蜘蛛に当たる。蜘蛛は目の前の食事を置いて振り返った。

「なんだ、ガキか。普通の人間風情じゃ俺のような悪魔の前だと餌にしかならんぞ。」

自分を悪魔と言った蜘蛛を見つめながら俺はただ驚いていた。

「うるさいな。・・・そこにいるのってまさか椎名さん？」

俺は、蜘蛛をめんどくさそうに一瞥してその後ろに視線を向ける。

「えっ！黒城君？」

音の主こと椎名は俺に気付き、言った。

「やっぱり椎名さんか。はあくめんどい。」

そう言うっては視線を蜘蛛に移す。

「クラスメート見捨てるわけにもいかないからさ、その下位悪魔は消えてくれ」
言うが早いか俺の背中に真っ黒な翼が現れる。そして右手を蜘蛛に向けて、微笑んだ。

プロローグ（後書き）

初投稿です！

これからもよろしくですねえ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2506s/>

悪魔の少年と人間の少女。

2011年10月8日23時29分発行